

## 穂高岳涸沢雪溪の経年変化の資料収集

神田健三（中谷宇吉郎雪の科学館）

北アルプス穂高岳の涸沢雪溪について、筆者が所属した信州大学の学生サークル自然科学研究会が1968年に調査を開始し、主に融雪末期の年々の規模を記録してきた。調査は学生とOBにより1987年まで20年間続いた。その後、各地の雪溪が全般的に大きく残った1989年、筆者らがセスナ機で涸沢を含む北アルプスの広域の写真撮影を行い、空撮は1996年まで続けられた。2011年夏、筆者は涸沢に24年ぶりに入山し、それを機に、これまでの空白期間の記録収集を行った。デジタルカメラの普及で日付のわかる写真が集まれば、雪溪の記録の欠落を補えると考えたからである。幸い、山小屋や山岳写真家からの協力が得られ、又、林野庁の空中写真を収集し、1967年以降の45年間で記録がないのは2005、2007の2年のみとなった。

涸沢雪溪の資料の多くは斜め写真で、平面図化と数値化は今後に残され、又、全般的な解析も今後の課題であるが、いくつかの事実を紹介する。

- ① 比較的に大きかった年 1967～69, 72～77, 81, 87, 89 (最大), 92～93, 96, 2011年
- ② 消滅したか僅少だった年 1991, 94, 97～99, 2004 (下線は完全消失年)
- ③ 土石流が発生して雪溪の一部を蔽った年 1980, 83, 88, 90, 93, 95, 97, 2003

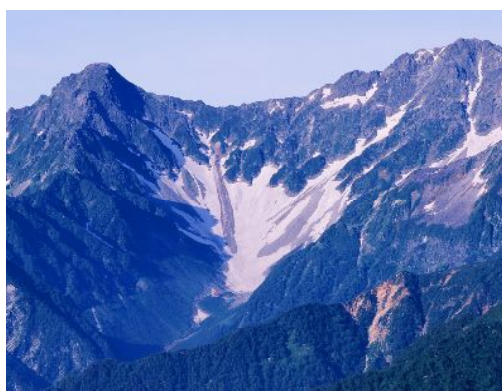
融雪末期の雪溪の規模には、涵養・消耗の様々な要素が反映され、その他の自然環境の変化も反映される。関係者と連携し、今後も永く穂高・涸沢の雪溪の変化を記録していく道を探っていきたい。



1989.10.9 観測史上最大

2011.11.4  
(藤家道義)

1975.5.5 なだれ跡



1997.7.20 土石流跡 (鈴木悦子)